
グリーンボンド発行に向けた グリーンファイナンス・フレームワーク策定について

SCSK株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役 社長執行役員 最高執行責任者:谷原徹、以下 SCSK)は、このたび、SCSKグループの掲げるサステナビリティ経営を資金調達面からも推進していくことを目的として、グリーンファイナンス・フレームワーク^{※1}(以下、「本フレームワーク」)を策定しましたので、お知らせいたします。

※1 グリーンファイナンス・フレームワーク PDF 資料 : <https://www.scsk.jp/news/2021/pdf/20210217-3.pdf>

1. グリーンファイナンス・フレームワーク策定の目的および背景

SCSKグループは事業を通じた社会課題解決により、社会と共に持続的な成長を図る「サステナビリティ経営」^{※2}を推進しています。社会が抱えるさまざまな課題の中で、特に重要と捉え、優先的に取り組む課題を7つのマテリアリティとして策定しております。本フレームワークで資金使途としている省エネ化による環境配慮型のデータセンター建設は、「地球環境への貢献」に資する取り組みです。

今後も SCSK グループは、総合力を最大限に発揮したサステナビリティ経営を推進することで、各ステークホルダーと共に、持続的な成長を目指していきます。

※2 サステナビリティについて : <https://www.scsk.jp/corp/csr/index.html>

2. グリーンファイナンス・フレームワーク策定および外部評価(セカンドオピニオン)の取得について

本フレームワーク策定にあたっては、国際資本市場協会(ICMA)の定める「グリーンボンド原則(GBP) 2018」、環境省の「グリーンボンドガイドライン(2020年版)」、ローンマーケットアソシエーション(LMA)及びアジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション(APLMA)が2018年に策定した「グリーンローン原則(GLP) 2018」、環境省の「グリーンローンガイドライン(2020年版)」に則り、4要件(1. 調達資金の使途、2. プロジェクトの評価及び選定プロセス、3. 調達資金の管理、4. レポートング)における指針を示しています。

本フレームワークの適合性評価については、「グリーンボンド原則 2018」及び「グリーンローン原則(GLP) 2020」並びに「グリーンボンドガイドライン 2020年度版」及び「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2020年版」における「グリーンローンに期待される事項」に適合している旨、第三者機関である Sustainalytics(サステイナリティクス)から適合性に関するセカンドパーティ・オピニオン^{※3}を取得しております。また、本フレームワークの策定において、Structuring Agent^{※4}として、大和証券株式会社よりアドバイスを受けております。

※3 Sustainalytics 社によるセカンドパーティ・オピニオン

日本語版 PDF : <https://www.scsk.jp/news/2021/pdf/20210217-2.pdf>

英語版 PDF : <https://www.scsk.jp/news/2021/pdf/20210217-2e.pdf>

※4 SDGs 債発行において、フレームワークの策定及びセカンドパーティ・オピニオン取得に関する助言を通じて、SDGs 債の発行支援を行う者

3. 調達資金の充当対象案件例

名称	「netXDC 千葉第 3 センター(SI3)」
所在地	千葉県印西市
敷地面積	約 32,201 m ²
延床面積	約 13,000 m ²
竣工予定時期	2022 年 3 月
建物	地下無し、地上 7 階、塔屋 2 階 鉄骨造、基礎免震+垂直制振
電源設備	本線予備線 2 系統受電 発電機:N+1 の冗長構成にて無給油連続 72 時間稼働 UPS: 部屋単位で冗長構成の変更可能なフレキシブル設計
冷却設備	N+1 冗長構成(オプションにより N+2 構成まで拡張可能)
ラック数	1600 ラック
総電気容量	20MW



<netXDC 千葉第 3 センター(SI3)の特徴>

1) 立地(印西市)について

千葉県印西市は、データセンターの銀座「INZAI」としてブランド化がすすみ、海外からも注目を浴びるエリアとなっています。注目されている理由として、地震・水害などのハザードリスクが低いこと、東京から電車で約 1 時間・成田国際空港から電車で約 30 分という利便性や、千葉県南房総エリアおよび茨城県北エリアの海底ケーブル陸揚局との距離が短く、通信品質や費用面にメリットがあることが挙げられます。

2) 高いネットワークコネクティビティ

SCSK は、netXDC 印西キャンパスのネットワークコネクティビティ向上のため、さまざまな事業者と協業しています。2019 年には BBIX 株式会社の第 10 センターとして、インターネットエクスチェンジ (IX) やクラウドとの接続拠点になり (AWS や Microsoft Azure など)、マルチクラウド接続サービスを提供開始しました。2020 年にはアルテリア・ネットワークス株式会社が、陸揚局や都内データセンターなどと最大 100Gbps で接続できる専用線接続設備を増強しています。SI3 のサービス提供開始までに、さらなるネットワークサービスの拡充を図っていきます。

3) 環境への配慮

環境負荷低減を目的とした高効率機器を採用、また運営の効率化により PUE^{※5} の最小化を図ります。SBT^{※6} 認定を視野に自然エネルギーを活用し、SCSK グループの活動の一つとして、エネルギー効率化を推進、SDGs の 17 目標のうち「7: エネルギーをみんなに そしてクリーンに」と「13: 気候変動に具体的な対策を」に寄与した環境配慮をいたします。

※5 Power Usage Effectiveness の略。データセンターなど IT 関連施設におけるエネルギー効率を測定する指標の一つ

※6 世界の平均気温の上昇を抑えるために、企業に対して科学的な知見と整合した削減目標を設定するよう求めるイニシアチブ

本件に関するお問い合わせ先

【報道関係お問い合わせ先】

SCSK株式会社
広報部 牧野
TEL:03-5166-1150

【報道関係以外に関するお問い合わせ先】

SCSK株式会社
財務部 田中
TEL:03-5166-2500

※ 掲載されている製品名、会社名、サービス名はすべて各社の商標または登録商標です。